

「意欲維持難しい」

宮里藍が引退会見

「これ以上ないゴルフ人生」

今シーズン限りで第一線を退くことを26日に表明していた女子ゴルフの宮里藍選手(31)＝東村出身＝は29日、東京都内のホテルで記者会見し、「一番はモチベーション(意欲)の維持が難しくなった」と語り、昨年夏ごろに引退を決意したことを明らかにした。父・優さんのお手製のクラブを4歳で握り、ここまで歩んできた年月については「これ以上ないゴルフ人生だった」と話した。



今季限りでの現役引退を表明し、記者会見で笑顔を見せる女子ゴルフの宮里藍選手。29日午後、東京都内のホテル

会見は午後1時から47分間行い、最後は言葉を詰まらせながら「引き際の寂しさは一切なく、感謝の気持ちで最後までプレーできることがうれしい」と話し、会場を後にした。今季は国内では6月8日に開幕するサントリーレディスに出場予定。11月まで続く米女子ツアーにも引き続き参戦し「1試合1試合を丁寧にやって早く勝ちたい」とまだ半年続く現役生活での優勝を目指していく。結婚について尋ねられると「それはない。すみません」と苦笑。引退後については「まだ決めていない。先に物事を決めると自分が苦しくなる。選手としても感覚派だったので、自分の感覚に正直にいきたい」とした。宮里は1985年6月生まれ。父・優さんの指導の下、いずれもプロゴルファーの兄の聖志、優作と共にゴルフ一家で育った。ジュニア時代から頭角を現し、東中から宮城県東北高に進学。2003年9月の3年時に、18歳でミヤギテレビ杯ダンロップ女子を制した。アマチュアでは30年ぶりのツアー優勝を飾る。その後プロデビューし、04年のダイキンオーキッドレディスをプロ初制覇、地元勢としても初の栄冠だった。